

熊本大学の建築系学生による熊本市上通地区活性化の提案

建築学科 大西康伸

1. 実施概要

商店街や行政等、地元の関係者、まちづくりに関心を持つ市民を対象に、「熊大の建築系学生達による熊本市上通地区活性化計画の提案」と題し、調査結果や提案作品等の展示会を実施した。展示会実施概要を下記に記す。

展示会タイトル：

熊本大学の建築系学生による熊本市上通地区活性化の提案

展示期間：2008年3月6日（木）～3月11日（火）

11時～16時（土・日は11時～17時）

展示場所：熊本大学工学部まちなか工房

熊本市南坪井町1-5 サンコスメディアビル2階

企画実施組織：

自然科学研究科環境共生工学専攻人間環境計画学講座、両角・位寄・大西研究室

展示内容：

1) 「上乃裏地区更新計画」

（工学部3年次後期設計演習、両角・大西グループ）

24名の学生が、2～4人のチームを作って上乃裏地区の街の魅力や改善すべき課題など観察調査した。その後、平面駐車場として利用されている土地にはやがて建物建設が進むと想定して、チーム毎に敷地や導入したい施設を選定し、安心して歩ける路地ネットワークの創出や賑わいの施設整備、まちなか居住の促進などをテーマに建物や町並みのデザインを提案した。

2) 「上通地区」や「中心市街地通町・桜町地区」の市街地整備調査

（大学院両角・位寄・大西研究室修士研究）

a) 通りの公共空間（通り+通りと連続する民間敷地内公共空地）の存在が、まちの魅力を高めているとの想定で、上通地区の通りの公共空間を現状調査し、魅力的な事例を紹介するとともに、回遊行動創出を誘発させるための整備課題を整理した。

b) 特定の時間帯に、中心市街地の通りの公共空間の各区間に何人くらいの歩行者が滞留しているか、また、市街地の各建物床は、どのような用途で利用されているかなどについて、平成14年

と19年の2時点を比し、若者向けの個性的な店舗の分布の変化に伴って、通行者の分布も変化していることを検証した。

3) 「路地と庭で構成されるまち：熊本市上乃裏地区における、まちなか居住計画」

（大学院両角・位寄・大西研究室修士研究）

高層マンションの増加によって、上乃裏地区独特の人間的なスケール感が失われていくことを心配して、現在平面駐車場として利用されている敷地を段階的に建て替えながら、中層の接地型住宅や店舗群で構成されたまちなみや、快適な裏路地とポケット広場を創出することを提案した。

2. 実施結果

来場者（商店街関係者、行政関係者、一般市民、学生）は延べ30人に上り、パネルや模型に熱心に見入っていた。下記の写真はその様子である。

